

校長先生の初恋物語

第64話 走れよしこさん

バトンが次々に渡っていき
ました。2組はトップをキープ
していました。他のクラスの
人達は、いつもとちがう2組の
がんばりに、ちょっとおどろ
いているみたいでした。

よしこさんが走る番が来ま
した。

とっくんは、思い出していました。よしこさんとの、さ
まざまな思い出。

5年生の時、となりの席になって、やさしくしてもらっ
たこと。そして、誕生日会に招待されるほど、仲良くなっ
たこと。その時に、カールのチーズをプレゼントするとい
う失敗をしたのに、よしこさんは「ありがとう。」と言っ
てくれたこと。アマーラさんを助けるためのオクラホマミ
キサーで、とっくんがダンプさんを選んで、焼きもちを焼
いてほっぺたをふくらませた顔がかわいかったこと。遠足
で愛のハンバーグをつくってくれたのに、食べられなかつ
たこと。そして約束を破ったとおこってしまったこと。そ
んなよしこさんが、今、目の前で、いっしょうけんい走っ
ています。がんばって走っています。

「ああ、ぼくはやっぱり、よしこさんの優しさが好きなん
だなあ。」あらためてよしこさんが好きなんだという気持
ちが大きくなっていきました。そして、よしこさんに向か
って、さげびました。

「よしこさーん。大好きだーん。がんばれー
ん。」その声に、足長君がぎろって見てきました。
ダンプさんとアマーラさんも、こわい顔してこっちを見ま
した。そんなの無視して、応援と愛の告白です。



「よしこさーん。大好きだーん。」
他の学年のみんなが、笑っていました。でもそんなの関係
ありません。よしこさんが、大好きだという気持ちは、本
物です。

「よしこさーん。ファイトー。大好きだーん。」

その時です。よしこさんの耳に、とっくんの愛の告白が届
いたんです。よしこさんは、とっくんの方を一瞬向いて、
そのあと、今まで見たこともないような速さで走り出しま
した。

「よしこのラブラブパワー。」
よしこさん、なんと、トップ
のまま、走ってきました。他
の2人は、よしこさんよりよ
っぽど速い人達なのに、ぜん
ぜんよしこさんに追いつい
ていません。

「そんなばかな。」
いつもはばかにしてくる1組
の子が、言っていました。

そのままよしこさんは、ト
ップのまま次の走者にバトン
パス。そして、バトンを渡し
たあと、とっくんの方を向い
て、ピースサイン。かわいい。
ほんとうにかわいい。

さあ、このあと、トップの
ままでいけるのか、次に走るのは、とっくんをこれまで何
度も救ってくれた、ちん君です。



次回予告
ちん君に襲いかかるアクシデント

